

株主のみなさまへ

# 2002年度 事業報告書

2002年4月1日から2003年3月31日まで



株式会社 **ハーモニック・ドライブ・システムズ**

**JASDAQ** 6324

## ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの2002年度(2002年4月1日から2003年3月31日まで)における営業の概況と、今後の取り組みについてご報告いたします。

## 当期の経営環境と施策について

2002年度における当社グループの事業環境は、日本国内の半導体・液晶製造装置関連で若干の需要の回復傾向が見え、また、一部顧客のプロジェクト需要などがありました。全般的には企業の設備投資抑制の影響を受け厳しい状況で推移しました。また、海外市場についても世界的な経済減速の影響を受けて、米国、欧州とも低調な需要状況で推移いたしました。

このような状況のもとで、当社グループは、精密制御分野における一層の競争力向上を図るため、小型・軽量・高精度化製品の開発に努めるとともに、技術サービスの強化を推進し、顧客要求に密着した営業活動を展開することで、受注の拡大に努めました。

また、直接及び間接部門の無駄を省き、納期の短縮、在庫の削減、コストの低減に努めました。特に納期短縮につきましては、最重点経営目標に掲げ、外部コンサルタントの導入、特別プロジェクトチームによる生産革新活動の推進、経営情報システムの活用などの各種施策を通じて、一定の成果をあげることができました。

さらに、今後の国際化戦略の一環として、2002年7月30日に、欧州地域を主とした独占販売店契約並びに製造ライセンス及び技術援助契約を締結しております。ドイツ国法人ハーモニック・ドライブ・アーゲーの発行済株式の25%を取得し、当社グループの関係会社といたしました。

## 2002年度の業績について

2002年度における連結受注高は92億43百万円(前期比24.9%増)となり、連結売上高につきましては、91億1百万円(前期比9.3%増)となりました。製品区分別連結売上高では、減速装置は、70億67百万円(前期比12.3%増)で全体の77.6%を占め、メカトロクス製品は、20億34百万円(前期比0.1%増)で全体の22.4%を占めました。

損益面につきましては、連結売上高が前期に比べ増加したことなどにより、連結経常利益は、4億6百万円(前期比578.7%増)となりました。特別利益として83百万円、特別損失として、2億46百万円を計上しましたので、税金等調整前当期純利益は、2億42百万円(前期は税金等調整前当期純損失3億1百万円)となり、連結当期純利益は、89百万円(前期は当期純損失3億円)となりました。

以上の様に、2002年度の連結業績は前年度と比較して、増収・増益となりました。

## 今後の取り組みについて

当社グループは、トータルモーションコントロール分野で国際的な技術・技能集団として、常に顧客に信用され満足される企業グループとしての地位を確固たるものにするため、以下の取り組みを実施します。

### ・国際化を推進します

当社グループが製造・販売している精密制御装置は、日本、米国、欧州が主要な市場です。前述の様に、2002年度にはドイツ国法人であるハーモニック・ドライブ・アーゲーを当社グループの関係会社に加えたことにより、当社および子会社である米国法人を含めた「日・米・欧」の3極間の連携を一層緊密な物とし、世界市場で勝ち抜ける企業集団への成長を図ってまいります。

### ・技術と技能の高度化を追求します

製造業にとって技術開発力の強化と技能の向上は企業存続のための生命線であり、引き続き経営資源を重点的に投資してまいります。当社グループでは、競争力の源泉である「技術」と「技能」を明確に区別して捉え、相互のレベルアップを通じて新しい価値創造を具現化してまいります。具体的には、コアとなる技術と技能の強化を図るため、「10倍の精度向上」という目標の実現に向けて、研究棟を最大限に活用いたします。また、激しく変化する市場要求に応えるため開発リードタイムを短縮し、顧客要求を満足させる新製品をタイムリーに市場投入することにより、売上に占める新製品寄与率の向上を目指します。

### ・生産革新の取り組みを前進させます

当社グループでは、あらゆる面での「無駄取り」をテーマに生産革新に取り組んでおりますが、2003年度に

においても現在の活動を前進させ、より柔軟な生産技術と管理技術の構築のもとで納期のさらなる短縮と在庫の削減、コストの低減により、競争力の強化を図ります。

### ・グループとしての最適な事業運営を推進します

2003年4月1日付をもって、精密遊星減速機事業を100%子会社として分社しました。新設会社名は、「株式会社ハーモニック・エイディ」とし、分社化により機動的な事業活動の推進を実現し、コスト・納期などの市場における競争力強化を図ることで、今後も成長が見込める精密遊星減速機事業を一層発展させてまいります。このように、各事業における権限の委譲と責任の明確化を図りながら、今後もグループ全体としての事業最適化を目指します。

### ・経営機構改革を行います

株主の皆様をはじめとするステークホルダーの期待に資する企業を目指して、経営の健全性と透明性の向上に努めてまいります。具体的には、経営監視機能と経営執行機能の分離を柱とする経営機構改革を行い、取締役会、取締役、執行役員との機能・役割を明確にし、経営の活性化を図ります。

これら諸施策を通して、当社グループの総合力を高めるとともに、厳しい経営環境下でも安定した収益を確保できる体質への改善を図りながら、グループとしての連結企業価値の向上につなげてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

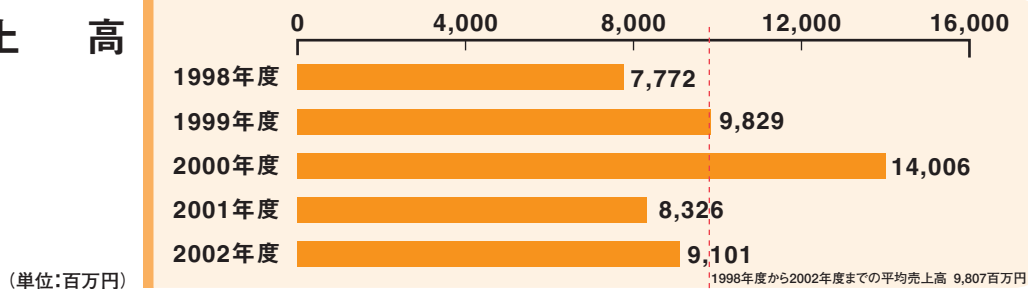
2003年6月

代表取締役会長 伊藤 光昌

代表取締役社長 熊谷 信生

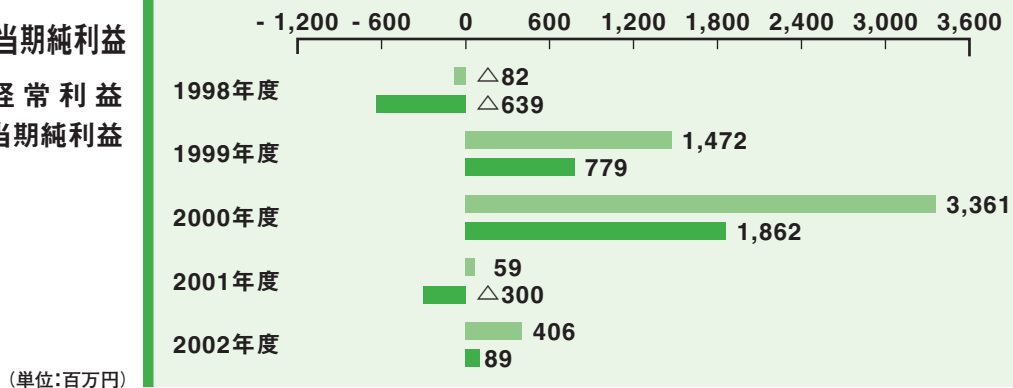
## 業績の推移(連結)

### 売上高



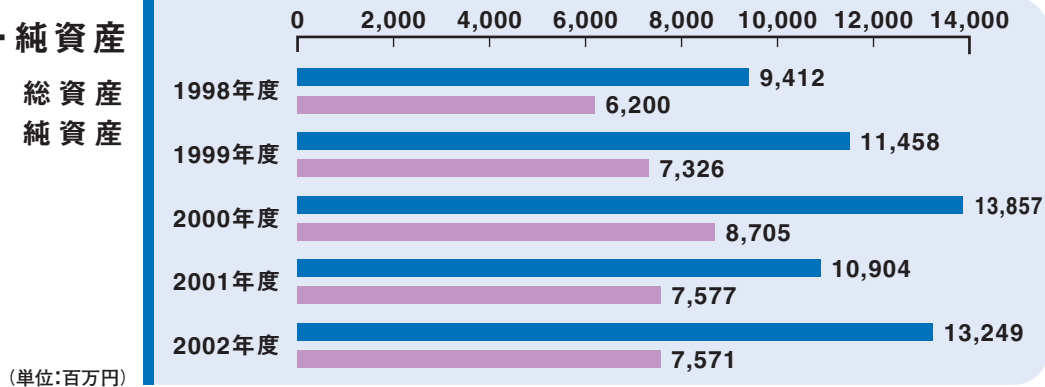
### 経常利益・当期純利益

■ 経常利益  
■ 当期純利益



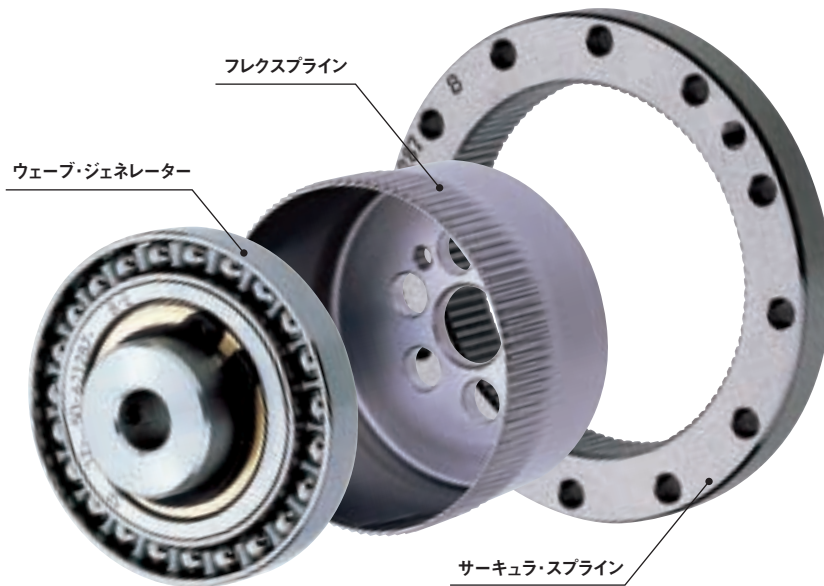
### 総資産・純資産

■ 総資産  
■ 純資産



## 技術の新世紀へ

弾性力学を応用した画期的な発明に接し、その可能性を確信。



コンパクトなハーモニックドライブを求めて技術的な研究を重ねてきました。右図はコンパクト化への歩みであります。この蓄積した技術をもとにモーションコントロールの可能性をさらに追求してゆきます。

ハーモニックドライブはユニークな原理の歯車です。従来の歯車と異なり金属のたわみ、弾性力学を応用したもので、米国のマッサー氏によって生み出されたものです。

氏は、専門の機械工学の分野を超え、物理・化学・生物など広範囲にわたり数多くの特許を取得する天才発明家です。ハーモニックドライブのアイデアは氏が学会で他の研究者と「テコの原理」について討論している際に、突如ひらめいたものといわれます。

この革命的な発明との出会いから、当社は、より高精度、高トルクかつコン



～1991年

1992年～

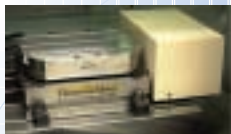
最新超扁平型

## ●● 主要製品

当社では、精密制御分野に事業の核を求め、「トータルモーションコントロール」をキーワードとした各要素技術の研究・開発を通じて、お客様の様々なご要求に対応できる製品展開を図っております。

### Harmonicsyn<sup>®</sup>

精密制御に不可欠な、高精度センサーを製造・販売しております。高分解能・高い耐震性・使いやすさを特色としています。

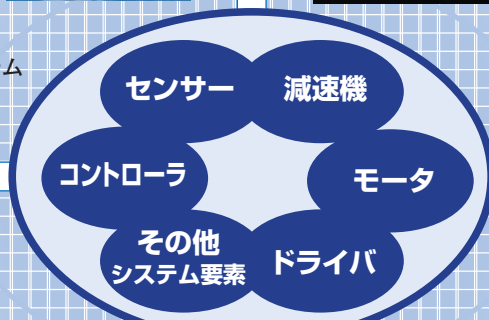


自動心出し装置などシステム商品も販売しております。



### HarmonicDrive<sup>®</sup>

わずか3点の基本部品から構成されているハーモニックドライブは、金属の弾性(たわみ)を歯車に応用した機構により、精密な位置決めが可能な減速機です。お客様のニーズに対応した多種多様なハーモニックドライブを製造・販売しております。



トータルモーションコントロール概念図

トータルモーションコントロールの視点から、減速機・軸受・モータ・センサーなどを最適に組合わせた特色ある高性能アクチュエータとそれをコントロールする制御機器を製造・販売しております。



**MECHATRONICS**  
Fine Mechanics & Motion Control

当社が培ってきた精密加工技術と、コンパクト・高トルク・高精度を実現した開発技術によって生まれた、遊星歯車減速機です。ハーモニックプラネタリは、その構造が創造的であると評価され、精密工学会技術賞を受賞いたしました。



**AccuDrive<sup>®</sup>**

軽量・コンパクト・高精度を特徴とするハーモニックドライブは多関節ロボットを代表とする産業用ロボット分野で、あるいは医療用機器、光学測定機、通信機器、印刷機器などの分野で、さらに深海ロボットや宇宙開発といった科学技術の最前線へと、その活躍の場を広げています。

本田技研工業(株)様提供



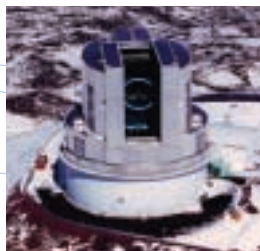
## ▶ ヒューマノイドロボット

ロボットの腕や足にハーモニックドライブが使われています。次世代のロボットは、限りなく人間の機能に近づいていくと考えられます。

## ▶ ナビゲーションシステム

独・仏・英の3国共同企業のエアバス社。その航空機の安全なフライトを導くナビゲーションシステム(慣性航法装置)にハーモニックドライブが使用されています。

エアバス社様提供



## ▶ ハワイ島マウナケア山の大型光学赤外線遠鏡「すばる」

心臓部の主鏡(直径8.3メートル)の凸凹を0.1 $\mu$ m以内の鏡面に保つために264本のハーモニックドライブアクチュエータが主鏡部裏側に組み込まれ、宇宙誕生の謎を解き明かす、150億光年の彼方の宇宙を見つめています。

文部科学省国立天文台様提供



## ▶ 太陽熱利用の空調システム

太陽の動きをミラーが追尾し、太陽熱を集光します。その装置の駆動部分に、ハーモニックドライブが組み込まれています。



(株)ダイヘン様提供

## ▶ 宇宙衛星

太陽電池パネルの位置・姿勢制御システム、その駆動部で活躍するのがハーモニックドライブです。宇宙空間で使用されるハーモニックドライブには、苛酷な環境に長時間耐えられるよう、材質・構造に数々のノウハウが注ぎ込まれています。



宇宙開発事業団様提供

## ▶ 半導体ウエハ搬送用ロボット

コンパクト、高精度、高剛性、なめらかな動作、そして長寿命。数多くのメリットを備えた当社製品が、クリーンルームで使用されるロボットに採用されています。

### 小型タイプの新商品を拡充しました

近年、各種装置の小型化、高精度化が進んでおり、モータや減速機に対する小型・軽量のニーズが一層高まっています。

当社ではこうした要求を先取りし、市場での優位性を高めるために、小型製品の商品力強化に取り組んでおります。減速機の小型化はもちろんのこと、ベアリング・モータなどの構成部品の開発に対しても当社がこれまで培った技術が生かされています。半導体製造装置や各種検査装置などを中心に、新たな用途の拡大を図って参ります。



### 高速ロボットハンドの開発に 当社技術が貢献しました

東京大学大学院の石川正俊教授は、画像処理技術の第一人者です。石川教授は従来の画像処理が最高でも33ms (1/30秒) であるのに対し、1ms (1/1000秒) と33倍の速度で処理可能な高速汎用ビジョンチップを開発され、このビジョンチップの性能に追従できる高性能アクチュエータを求められておりました。当社では、こうした要求を実現できるアクチュエータとハンド機構の開発を行い、石川教授の研究に大きく貢献しました。

右の写真は、人間の目には見えないスピードで動作するハンド(掌)で、1秒間に4メートルのスピードで落下するボールをカメラで画像認識し、3本の指を使ってキャッチすることができます。

当社的高速・高トルク・軽量・高精度を実現した新開発アクチュエータと機構設計・製造技術が、石川教授の画像処理技術と融合し、新たなロボットの可能性を拓きました。



東京大学大学院 石川研究室様提供



## 株主工場見学会を開催しました

2003年3月20日に、株主の皆様を対象にした当社穂高工場見学会を実施しました。当日は天候にも恵まれ、遠路より11名の株主の皆様にご参加いただきました。

当会社概要・製品紹介・生産の取り組みなどについて説明を申し上げた後、弊社工場およびその他の施設の見学を通して、生産現場や研究開発などの事業活動を視察いただきました。

当日は貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。



## 人と心のハーモニー

### ハーモニックコンサート

当社の「ハーモニックコンサート」は2002年度で第20回目を迎えました。例年どおり、長野県豊科町公民館において、クラシック音楽が演奏され、会場満員の聴衆を魅了しました。

第20回概要

徳永二男(ヴァイオリン)・上村 昇(チェロ)・練木繁夫(ピアノ)  
演奏曲目:ベートーヴェン(チェロ・ソナタ第2番ト短調 op.5-2) 他  
※敬称略



### ハーモニック講演会

ハーモニック講演会は2002年度で7回目となり、今回は作家の阿川弘之氏をお招きし、「日本人とユーモア」というテーマで講演いただきました。

- ◆コンサート・講演会ともに収益金は小中学校の図書購入費として豊科町・穂高町に寄贈しました。



# 財務諸表(連結)

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 (2002年3月31日現在)	当連結会計年度 (2003年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>5,904,789</b>	<b>7,072,249</b>
現金及び預金	1,215,381	1,773,754
受取手形及び売掛金	2,924,148	3,822,722
有価証券	363,282	318,667
たな卸資産	971,863	816,937
繰延税金資産	152,717	93,098
その他	286,499	256,009
貸倒引当金	△9,103	△8,940
<b>固定資産</b>	<b>5,000,114</b>	<b>6,177,200</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,260,634</b>	<b>3,220,171</b>
建物及び構築物	1,369,964	1,745,769
機械装置及び運搬具	187,314	262,698
土地	803,912	803,912
建設仮勘定	507,030	8,769
その他	392,412	399,020
<b>無形固定資産</b>	<b>268,237</b>	<b>239,101</b>
ソフトウェア	258,544	229,748
その他	9,693	9,353
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,471,242</b>	<b>2,717,926</b>
投資有価証券	996,151	727,781
関係会社株式	—	1,570,970
繰延税金資産	179,869	132,693
その他	295,222	286,480
<b>資産合計</b>	<b>10,904,904</b>	<b>13,249,449</b>

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 (2002年3月31日現在)	当連結会計年度 (2003年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>2,037,198</b>	<b>2,283,719</b>
支払手形及び買掛金	955,072	1,303,918
短期借入金	10,000	10,000
1年以内返済予定長期借入金	386,940	300,878
未払法人税等	40,024	44,181
賞与引当金	235,310	227,843
その他	409,851	396,896
<b>固定負債</b>	<b>1,289,834</b>	<b>3,394,044</b>
長期借入金	958,800	3,027,922
役員退職慰労引当金	316,034	356,122
長期前受収益	15,000	10,000
<b>負債合計</b>	<b>3,327,032</b>	<b>5,677,763</b>
<b>少数株主持分</b>	—	—
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>666,800</b>	—
<b>資本準備金</b>	<b>3,264,200</b>	—
<b>連結剰余金</b>	<b>4,001,574</b>	—
その他有価証券評価差額金	52,389	—
為替換算調整勘定	165,419	—
<b>自己株式</b>	<b>△572,511</b>	—
<b>資本合計</b>	<b>7,577,872</b>	—
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>10,904,904</b>	—
<b>資本金</b>	—	666,800
<b>資本剰余金</b>	—	3,264,200
<b>利益剰余金</b>	—	4,070,426
その他有価証券評価差額金	—	28,900
為替換算調整勘定	—	115,135
<b>自己株式</b>	—	△573,775
<b>資本合計</b>	—	<b>7,571,686</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	—	<b>13,249,449</b>

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当連結会計年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
売上高	8,326,947	9,101,391
売上原価	5,206,933	5,695,620
売上総利益	3,120,014	3,405,770
販売費及び一般管理費	3,050,012	3,041,165
営業利益	70,002	364,604
営業外収益	70,185	118,965
受取利息	14,169	13,670
不動産賃貸収入	36,720	39,240
持分法による投資利益	—	9,187
その他の収入	19,295	56,868
営業外費用	80,355	77,506
支払利息	20,638	38,074
不動産賃貸費用	25,544	28,320
賃貸資産修繕費	9,000	—
その他の費用	25,172	11,112
経常利益	59,831	406,063
特別利益	2,423	83,284
貸倒引当金戻入益	2,423	—
土地取得補助金受取額	—	59,878
建物取得補助金受取額	—	23,406
特別損失	364,139	246,845
固定資産除却損	15,889	12,447
投資有価証券評価損	233,598	11,082
投資有価証券売却損	—	26,345
退職給付会計基準変更時 差異費用処理額	114,651	114,651
固定資産圧縮損	—	23,406
特別退職金	—	58,911
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	△301,884	242,502
法人税、住民税及び事業税	60,670	27,521
法人税等調整額	△18,386	125,060
過年度法人税等戻入額	△34,507	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△9,370	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△300,290	89,921

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結剰余金計算書

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当連結会計年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
連結剰余金期首残高	4,748,780	—
連結剰余金減少高	446,915	—
配当金	286,915	—
取締役賞与金	150,000	—
監査役賞与金	10,000	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△300,290	—
連結剰余金期末残高	4,001,574	—
<b>(資本剰余金の部)</b>		
資本剰余金期首残高	—	3,264,200
資本準備金期首残高	—	3,264,200
資本剰余金増加高	—	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	—	3,264,200
<b>(利益剰余金の部)</b>		
利益剰余金期首残高	—	4,001,574
連結剰余金期首残高	—	4,001,574
利益剰余金増加高	—	89,921
当期純利益	—	89,921
利益剰余金減少高	—	21,069
配当金	—	21,069
利益剰余金期末残高	—	4,070,426

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	前連結会計年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当連結会計年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	871,366	476,234
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,034,871	△1,886,593
財務活動によるキャッシュ・フロー	△331,816	1,960,726
現金及び現金同等物に係る換算差額	47,460	△36,610
現金及び現金同等物の増減(△減)額	△447,861	513,757
現金及び現金同等物の期首残高	2,026,525	1,578,664
現金及び現金同等物の期末残高	1,578,664	2,092,421

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 財務諸表(単独)

## 貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	2002年度 (2003年3月31日現在)	科 目	2002年度 (2003年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>6,335,340</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,219,300</b>
現金及び預金	1,603,369	支払手形及び買掛金	1,216,761
受取手形及び売掛金	3,735,308	1年以内返済予定長期借入金	276,350
有価証券	30,220	未払法人税等	39,679
たな卸資産	673,157	賞与引当金	219,033
繰延税金資産	55,917	その他	467,475
その他	240,311	<b>固定負債</b>	<b>3,167,322</b>
貸倒引当金	△2,945	長期借入金	2,801,200
<b>固定資産</b>	<b>6,196,057</b>	役員退職慰労引当金	356,122
<b>有形固定資産</b>	<b>2,986,245</b>	長期前受収益	10,000
建物及び構築物	1,590,562	<b>負債合計</b>	<b>5,386,622</b>
機械装置及び運搬具	198,336		
土地	803,912	<b>資本の部</b>	
建設仮勘定	8,769	<b>資本金</b>	<b>666,800</b>
その他	384,664	<b>資本剰余金</b>	<b>3,264,200</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>238,996</b>	資本準備金	3,264,200
ソフトウェア	229,748	<b>利益剰余金</b>	<b>3,758,651</b>
その他	9,248	利益準備金	166,700
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,970,815</b>	任意積立金	2,500,000
投資有価証券	727,781	当期末処分利益	1,091,951
関係会社株式	1,786,247	<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>28,900</b>
繰延税金資産	170,985	<b>自己株式</b>	<b>△573,775</b>
その他	285,800	<b>資本合計</b>	<b>7,144,776</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,531,398</b>	<b>負債資本合計</b>	<b>12,531,398</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	2002年度 (皇 2002年4月1日 2003年3月31日)
<b>売上高</b>	<b>8,615,276</b>
売上原価	5,621,456
<b>売上総利益</b>	<b>2,993,820</b>
販売費及び一般管理費	2,659,431
<b>営業利益</b>	<b>334,388</b>
営業外収益	129,325
営業外費用	69,443
<b>経常利益</b>	<b>394,271</b>
特別利益	83,284
特別損失	247,187
<b>税引前当期純利益</b>	<b>230,368</b>
法人税、住民税及び事業税	16,424
法人税等調整額	105,911
<b>当期純利益</b>	<b>108,032</b>
前期繰越利益	994,453
中間配当金	10,534
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,091,951</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 利益処分

(単位:円)

科 目	金 額
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,091,951,537</b>
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金 (1株につき2,500円)	26,336,000
取締役賞与金	24,000,000
監査役賞与金	1,000,000
<b>合計</b>	<b>51,336,000</b>
<b>次期繰越利益</b>	<b>1,040,615,537</b>

(注)2002年12月13日に10,534,400円(1株につき1,000円)の中間配当を実施いたしました。

## 概要 (2003年3月31日現在)

商号：株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ  
Harmonic Drive Systems Inc.

所在地：〒140-0013  
東京都品川区南大井六丁目25番3号

TEL：03-5471-7800 (代表)

FAX：03-5471-7811

設立：1970年10月

従業員数：216名

資本金：666,800,000円

## 役員 (2003年6月20日現在)

代表取締役会長	伊藤 光昌
代表取締役社長	熊谷 信生
取締役	笹原 政勝
取締役	伊藤 良昌
取締役	吉田 治彦
常勤監査役	木場 靖夫
常勤監査役	高橋 功裕
監査役	中西 裕

- (注) 1. 伊藤良昌氏、吉田治彦氏は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役です。  
2. 木場靖夫氏、高橋 功氏、中西 裕氏は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役です。  
3. 当社では2003年6月20日より、執行役員制度を導入しております。

## 事業所 (2003年3月31日現在)

本社：東京都品川区南大井6-25-3 ビリーヴ大森7階  
〒140-0013 TEL. 03-5471-7800 (代)

穂高工場：長野県南安曇郡穂高町大字牧1856-1  
〒399-8305 TEL. 0263-83-6800 (代)

東京営業所：東京都品川区南大井6-25-3 ビリーヴ大森7階  
〒140-0013 TEL. 03-5471-7830 (代)

北関東営業所：埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-263 Y.S.Tビル3階  
〒330-0854 TEL. 048-647-8891 (代)

甲信営業所：長野県南安曇郡穂高町大字牧1856-1  
〒399-8305 TEL. 0263-83-6910 (代)

中部営業所：名古屋市中区錦3-6-29 サウスハウス7階  
〒460-0003 TEL. 052-961-7081 (代)

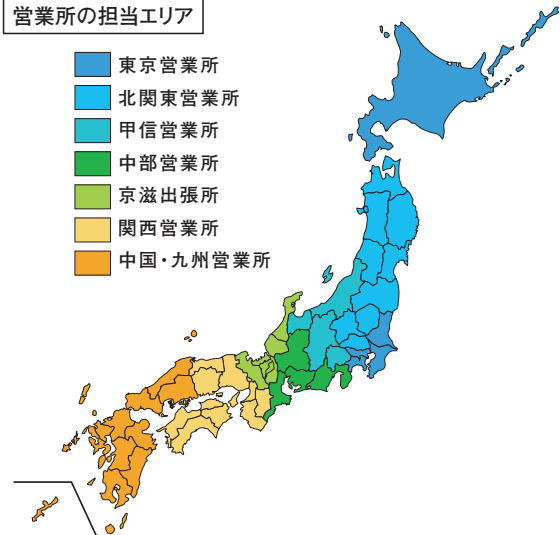
関西営業所：大阪市福島区海老江2-1-31 青山ビル5階  
〒553-0001 TEL. 06-6458-5145 (代)

中国・九州営業所：福岡市博多区博多駅前1-15-20 アクサ福岡ビル7階  
〒812-0011 TEL. 092-451-7208 (代)

京滋出張所：滋賀県草津市大路1-8-1 南洋軒ビル3階  
〒525-0032 TEL. 077-516-0400 (代)

### 営業所の担当エリア

- 東京営業所
- 北関東営業所
- 甲信営業所
- 中部営業所
- 京滋出張所
- 関西営業所
- 中国・九州営業所



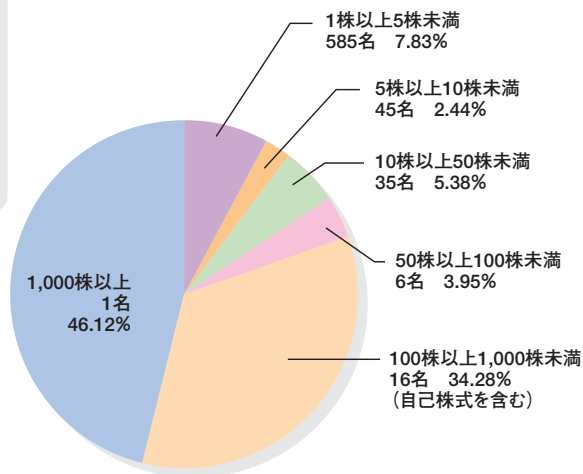
# 株式の状況 (2003年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 : 44,000株  
 発行済株式の総数 : 11,036株  
 株主数 : 688名

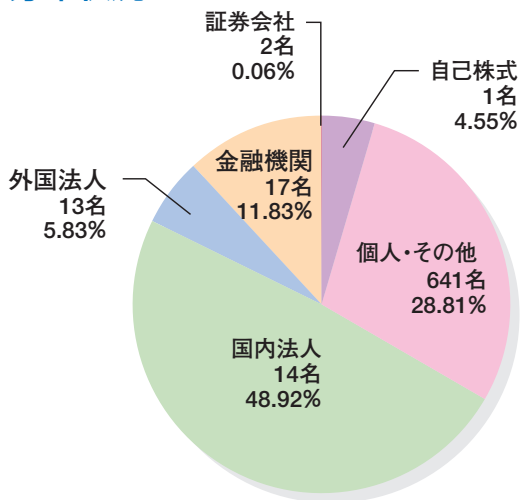
(注) 2003年5月20日付をもって、株式分割(1株を3株にしたことに伴い、現在の「会社が発行する株式の総数」「発行済株式の総数」は以下の様に変更されています。

- 会社が発行する株式の総数 132,000株
- 発行済株式の総数 33,108株

## 所有株数別 分布状況



## 株式所有者別 分布状況



## 大株主

株主名	持株数	議決権比率
株式会社光電製作所	5,090(株)	48.33(%)
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	527	5.00
伊藤美保	396	3.76
伊藤典光	386	3.66
伊藤光昌	354	3.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	223	2.11
帝人製機株式会社	209	1.98
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン	206	1.95
トリンカウス インターナショナルル ク セン ブ ル グ	168	1.59
所 敦 夫	139	1.32

(注) 当社は自己株式501.6株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

## 株主メモ

決 算 期：毎年3月31日

定 期 株 主 総 会：毎年6月に開催いたします。

利 益 配 当 金：決算期現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主並びに端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。

中 間 配 当 金：中間配当を実施するときは9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主並びに端株原簿に記載または記録された端株主にお支払いいたします。

基 準 日：3月31日

そのほか必要あるときは、取締役会の決議により、あらかじめ公告して、基準日を定めます。

### 株 式 名 義 書 換

(1)名義書換代理人：東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

(2)同事務取扱場所：東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

（郵便物送付先） 〒135-8722  
（電話お問合せ） 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
03-5213-5213(代表)

(3)同 取 次 所：みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店

公 告 掲 載 新 聞：日本経済新聞

当社は決算公告に代えて、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第16条第3項」の規定により、貸借対照表ならびに損益計算書を以下の当社ホームページに掲載しております。

●ホームページアドレス <http://www.hds.co.jp/koukoku/index.html>



株式会社 **ハーモニック・ドライブ・システムズ**

〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目25番3号

TEL : 03-5471-7800 (代表) FAX : 03-5471-7811 URL : <http://www.hds.co.jp/>